

# おこし図書館

No.128

発行おこし図書館  
代表 青木和子  
松本市牧の原1-104  
416  
TEL 047-311-0886

## 講演会

### 図書館の

#### 指定管理者制度について

報告 青木和子

2007年10月18日(木)、守谷中央図書館で「図書館と歩む会」(守谷市)主催の講演会が開催されました。講師は日本図書館協会の常世田良さん。

守谷市の市議会議員・図書館協議会委員の参加も多く、豊富に資料を使った熱気あふれる講演会となりました。

### 講演会より

「指定管理者制度(以下「指定」)導入の前に、前提条件として「図

書館はどうかあるべきか」を考えるべきだ。

図書館の運営形態の多様化自体は、否定するものではない。しかし、その目的はサービスの質的量的な向上でなければならぬ。

「指定」導入という名の民間委託は、多くの場合「コスト削減」が第一目的とされる。しかし、民間委託をすれば、本当にコスト削減はできるのだろうか。民間企業にとって、利益を上げられない事業(例えば「無料」を原則とする図書館)は、魅力的ではない。従って、安価な委託料の中で企業が利益を得るためには、人件費を低くおさえて

会社の利益を生み出そうとするのが当然の成り行きであろう。例えば、自治体へのコスト請求が職員一人あたり時給200円であっても、実際に職員に支払われる時給は600円で、その「差額」は会社のものである。

しかし、自治体直営であれば「差額」は必要ないので、一人あたりの時給をより高く設定しても結果的にコストは低くおさえられる。民間委託は本来、効率的な行政運営のための「手段」のはずだ。民間委託そのものが「目的」になつてしまつてはいけない。

・文部科学省社会教育課資料より  
公民館・図書館・博物館への「指定」適用については、住民サービスの向上を図る観点から、地方公共団体が制度を適用するかどうかを判断し、また公の施設の設置の目的を効果的に達成する観点から

「業務の範囲」を条例において明確に定める、としている。

(2005年1月25日)

・衆議院決算行政監視委員会より「図書館は、市場原理や民間委託でうまくいくと考えるか」との逢坂誠二議員(民主党)の質問に対して、中馬弘毅国務大臣(当時)は、「基本的には公共サービスであり、地方自治体や国がしっかりと運営の基本を決め、それを監督する義務がある」と答弁している。

(2006年6月6日)

・(社)日本図書館協会の見解より「公の施設の管理に対して「指定」を適用するかどうかは、その施設の目的を効果的に達成するために必要か、また住民サービスの向上に資するかどうかをまず検討されなければならぬ。(略)住民の視点で考えると、図書館事業の有効な達成にとって、事業の継続性と発展性を確保することがとりわけ重

要である。資料の収集ひとつをとっても、それは不断の継続と蓄積を不可欠とし、うまくいかなかったからといって、やり直しのきくことではない。図書館活動を発展的に重ねるノウハウを、サービスの現場で働く人、管理運営の組織の内に蓄積できることが重要であり、しかも無料原則を図書館サービス充実の原則と考えれば、いわゆる民間の活力を経済的収益に活かすにも自ずと限度がある。この制度導入のメリットはむしろ、むしろ事業の効果を損う面が強いというほかない。(略)「指定」の創設には、収益を目的とする民間企業体にも公共サービスを開放することを目的として挙げられている。しかし、図書館サービスは無料の原則があることもあり、収益をうむ公共サービスからは遠い。このことから、

公立図書館に「指定」を適用することには制度的な矛盾があると考えられる。(2005年8月4日)

・諸外国の図書館政策との比較  
アメリカでは日本の5〜6倍のコストをかけている。医療・教育・法律・ビジネス・求人など、生活情報や地域情報の宝庫であり、「引越したら図書館へ」といわれる。先進諸国では「課題解決型図書館」が当たり前であるが、日本はコスト面その他で遠く及ばない。  
OECD学力到達度テストで連続総合一位を実現したフィンランドの教育政策の基盤は、公共図書館の充実である。

韓国・中国・シンガポールなどアジア諸国の図書館政策は、日本のはるか先を行っている。

X  
公共施設の中で断然トップの利用率を誇るのは図書館だ。コスト削減という目的のために、「経営

のノウハウや良質なサービスの継承が不可能と思われる民間業者へ委託することは疑問に思う。公共施設に「指定」を適用したものの、様々な問題が起こったため再び直営に戻したという例が、全国的に多数みられる。

図書館に「指定」導入、及び導入予定は、2007年4月の時点で約4%である。その後「指定」導入についての日本図書館協会への問合せは無い、という状況である。



《公開授業》

子どもはすばらしい

…学ぶ喜びをこうえる

報告 青木和子

2007年12月22日(土)、松戸自主夜間中学の開講200回記念公開授業が、

勤労会館ホールで開催されました。講師は、教育者であり、「十三湖のばば」などで知られる作家の鈴木喜代春さん。

鈴木喜代春さんは、1945年に青森で教職に就きました。生活つづり方教育や本の読み聞かせなどを通して、出稼ぎが多く厳しい生活の水田単作地帯の子どもたちを「逃げない人間」として育てたいという願いを持って、

教壇に立つてこられました。1954年に松戸に移り、市内の小・中学校で教壇に立つ傍ら、児童文学などの執筆活動を続けました。「どの子どもも学びたがっている」

「どの子ども、もっと強く、優しく、賢くなりたいたいと思ってる」という信念を持ち、教育者として歩んでこられました。

今回の授業では、たくさんの新聞記事や子どもたちの感想文を通して、「人間は皆、同じ。」

と同時に、人間は皆、違う。人間は皆違って、皆貴い」ということをあらためて思い起こさせて頂きました。

《子どもたちへ》

みんな キラキラ

鈴木喜代春

本を読むことは  
つよく  
やさしく  
かっこいい  
もう一人の  
わたしと  
本の中で  
出会うこと

人間は だれでも いまの自分よりも  
もっと つよい自分 やさしい自分  
かっこいい自分 になりたいと思ってます  
「めっちゃめっちゃになって だめになっても  
いいよ」  
と 思っている人は 一人も いません

失敗してしかられると

「ぼくなんか、どうなったっていいんだ

ほっといてくれよ」

といって ひねくれる人がいますか

それは、自分をこまかしてゐるのです。

ほんとうは、ほっておいてもらつては

こまると思つてゐるのです。

このように、人間は、だれでもみんな

もっこつよくなり やさしくなり

かしこくなつて

キラキラ輝いた自分になりたいのです。

本には

そのようなもっこつよくやさしく

かしい、もう一人のわたしがいるのです

科学の本にも 文学の本にも 伝記の本にも

歴史の本にも どんな本にも

もっこつよくやさしくかしこくなつた

もう一人の自分が描かれてゐるのです

ですから、本を詠むともっこつよく

やさしくかしい、もう一人の自分と  
本の中で 出会うことができるので

ていねいに読めば

だれでも もっこつよくやさしく  
かしい、もう一人のわたしと出会う

キラキラと輝いた自分になれるのです

だから

本を詠むことは、たのしいのです

マンガやファミコンのたのしさと

ちがうところは

本はキラキラと輝くたのしさ、  
というこゝです

**みんなキラキラと輝きなさい！**

**後記**

・会報の合本づくりの仕上がり  
が遅れ、皆様に御心配頂いてい



ることと思いますが、ようやく大  
詰めを迎えております。

一方では、皆様に報告したい  
ことが溜るばかりです。しかし、

新しい会報を作る余力がなく、残  
念に思います。どうぞ、もうしば

らくお待ち下さい。

・2月定例会では、ジャンルを決  
めずに一冊ずつ本を持ち寄つて、

「おしゃべり会」をしました。と

ても楽しく、話が弾みました。ま

たの機会には、あなたもク参加さ

れませんか？

・いつも皆様から励ましを頂き、  
ありがとうございます。

今後、会のあり方について、

ご不明な点やご質問などがありま

したら、「おおい図書館」宛にご

一報下されば幸いです。また、会

報についてのご意見などもお聞か

せ頂きたいと思つております。

どうぞよろしくお願ひ致します。  
(事務局)